

「ローラーすべり台で遊んだよ」

入来 南帆 (いりき なほ) 6歳

輪光保育園
(鹿児島教区)

●表紙のことば●

「保育園での好きな遊びを描いてね」との先生の言葉に南帆さんは、すぐさま「ローラーすべり台描くー!!」と嬉しそうに描きはじめました。「これは○○君」「これは○○ちゃん」と友だちと話しながら描いていきました。また遊具の細かな特徴をとらえて、真上から見下ろしたように描いています。人物もさまざまな角度で描き、園庭の芝も画面全体に広がるように描いています。よく見ると画面の上部には青い空と太陽が描かれ、幼児期特有の多視点画になっています。

幼児が生活経験を描く時、その経験の中で見たこと、知っていること、そして楽しかったことなどを思い出しながら確かめるように描きます。ですから先生が「楽しそうに遊んでいるね」などと関心を示して声をかけたり対話したりすることで、さらに描きたいイメージが膨らみ、伝えたい気持ちが高まります。南帆さんも、この絵を描きながら想像の世界の中で、大好きなローラーすべり台での遊びを、追体験して楽しんでいっているのです。



おお はし いさお
大橋 功

岡山大学大学院
教育学研究科